

# オホーツクからのゼロエミッションを発信 ～オホーツクEV推進協議会活動とりまとめ 概要～

## 【協議会概要：平成22年12月設立】

### ●背景

- ▶ オホーツク地域は、世界自然遺産知床を始めとした多様な観光資源を有し、美しい自然を求め、国内外から多くの観光客が訪れる地域である。
- ▶ 人や物資の移動が自動車交通に強く依存している北海道においては、観光周遊の面においても環境保全との調和が強く求められている。
- ▶ 環境面から我が国の自動車事情に目を向けると、今後の環境対応車となる電気自動車(EV)の普及の重要性が高まっている。
- ▶ オホーツク地域が目指す自然環境と観光が調和した新たな観光モデルの構築により地域振興への寄与が求められている。

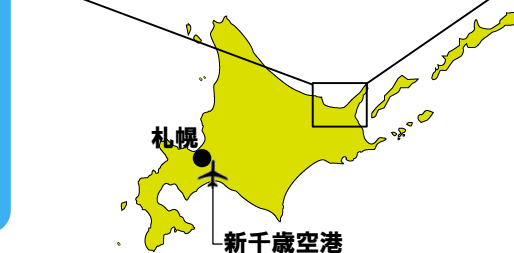


【目的】オホーツク連携地域が目指す自然環境と観光が調和した新たな観光モデルの構築とそれによる地域振興

行動目標1:オホーツク地域におけるEVを利用した観光モデルの検討と実践

行動目標2:オホーツク地域におけるEV利用のためのインフラ整備・運用に関する検討と実践

行動目標3:オホーツク地域におけるEV普及のための活動



## 【これまでの活動の概要：平成22年度～平成25年度】

主な活動項目	概要
<b>1. モニター実験</b> (→行動目標1, 2に対応)	オホーツク地域におけるEV走行・運用の実現、実走行データ収集整理(H22～H25年度)
<b>2. 道外観光客への意識調査</b> (→行動目標1, 2に対応)	道外観光客の道内観光実態、オホーツク地域でのEV利用意向の把握(H23年度)
<b>3. EV普及促進</b> (→行動目標3に対応)	HP作成・運営、地域イベントへの参加、オホーツクEV大学への協力等でのEV関連情報の発信(H22～H25年度)
<b>4. ゼロエミッションに向けた検討</b> (→行動目標1, 2に対応)	観光におけるEV利用モデル検討、既往研究を踏まえた充電設備配置検討、航続可能範囲・情報提供手段検討(H24～H25年度)

## 【各活動のまとめ】

### 1. モニター実験 [H22～H25年度]

- ▶ 主要な観光拠点の周遊は可能  
…一充電走行距離は夏～秋:最大約130km、冬:最大約100kmであり、地域内拠点間は概ね電欠なく周遊可能。
- ▶ 充電設備の拡充、航続距離の延伸等に関する意見があった  
…EVの課題に関する意見として「充電設備の拡充」が最も多く、次いで「航続距離の延伸」が多い。
- ▶ EVの航続距離や充電設備に関して情報を求める意見があった  
…充電設備の位置や充電時間の情報等を求める声がある。

### 2. 道外観光客への意識調査 [H23年度]

- ▶ 道外観光客はEVレンタカーのニーズを有する  
…オホーツク地域の旅行において道外観光客の5割以上がレンタカー利用を希望、また自動車利用を希望する道外観光客の8割はEV利用意向あり。
- ▶ 道外観光客は道内外の発着拠点として新千歳空港を多く利用  
…オホーツク地域を旅行する場合でも、発着のいずれかでの新千歳空港利用者は4割強を占める。一方、女満別空港を発着地とする場合は1割強。

### 3. EV普及促進 [H22～H25年度]

- ▶ オホーツクEV協議会HPによる発信  
…協議会の取り組みやキャンペーン開催情報等を発信。
- ▶ 地域イベントへの参加  
…地域イベント等開催時にEVの展示や試乗会を実施。(平成22年度～25年度までに計14回開催。)
- ▶ ポスター、リーフレット、のぼりの製作・設置  
…ポスターやリーフレット、のぼりを製作・設置し、協議会活動をPR。

# オホーツクからのゼロエミッションを発信 ～オホーツクEV推進協議会活動とりまとめ 概要～

## 【各活動のまとめ】

### 4. ゼロエミッションに向けた検討(抽出された課題について、実験等で得たデータを用いて方策等を検討)[H24～H25年度]

活動項目	まとめ
EV利用モデル、 現況の充電設備整備 状況での利用形態、 さらなる充電設備配 置に向けた検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>EV利用モデル 設置が望ましい箇所                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域内周遊 : 札弦周辺等</li> <li>○地域内外の連絡 : 北見-旭川間 遠軽-旭川間等</li> </ul> </li> <li>・時間情報やEVの航続距離を考慮し、電欠を気にすることなくEVで楽しむことができるルートを検討</li> </ul>
・航続可能範囲の 検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表的なルートおよび寄り道ルートについて、出発地点から観光スポット毎の目盛残量の目安や当該ルートの標高、充電スポットの有無等を整理、分析した。</li> </ul>
・情報提供手段の 検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EV利用のための情報提供手段として、紙媒体、カーナビ、携帯端末、路側の標識類のそれぞれ特徴と情報提供における課題について整理した。</li> </ul>

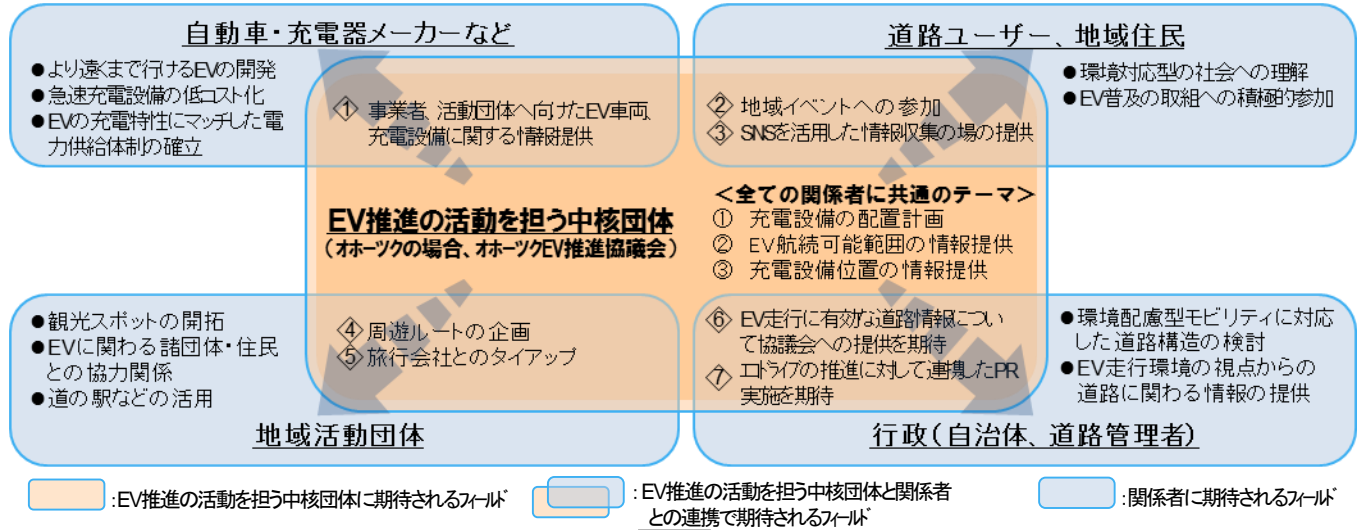
### <オホーツク地域内周遊のための充電設備配置>



## 【これまでの活動から明らかになったこと】

自然環境と調和した周遊観光による地域発展に向けては、これまでの活動より明らかとなった以下の事項に対し、メーカー、地域活動団体、道路ユーザー・地域住民、行政が相互に連携しながら継続的に対応を図る必要がある。

### <地域発展に向けて各関係者に期待される役割の全体構成>

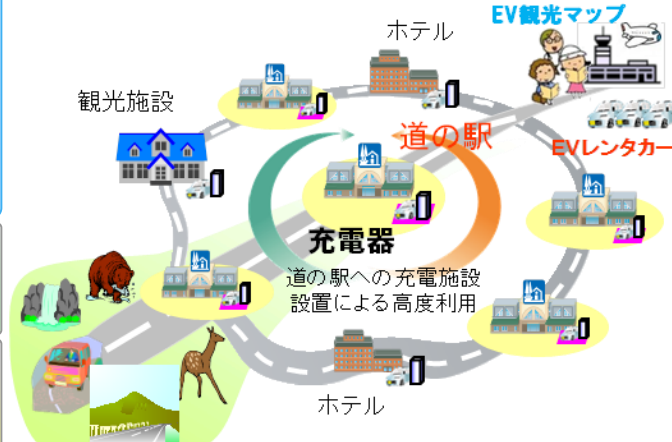


## 【オホーツク地域において今後目指すこと】

### <関係者の連携のもと、自然環境と調和した周遊観光により地域の発展を図る>

- 充電設備の配置計画に対して**
  - 車両の航続距離を考慮した地域内外における充電設備の拡充とその充電設備運用等の検討【①、②、③、⑥】
  - 想定したEV利用モデルでの利用促進に向け、EVの航続可能範囲を考慮した観光周遊のためのコース形成と実施の取組【④、⑤、⑥】
  - ウトロ地区におけるEVレンタカーの配備の検討【⑤】
  - 上記の検討や取組の発信【①、②、③、⑤、⑦】
- EV航続可能範囲の情報提供に対して**
  - オホーツク地域におけるEVの航続可能範囲を利用者に提供するとともに、航続距離に関連した不安の払拭【②、①、②、③、⑤、⑦】
- 充電設備位置の情報提供に対して**
  - 紙媒体やカーナビ、携帯端末、路側の標識等を適切に選択した情報の提供【③、①、②、③、⑤、⑦】

### <自然環境と調和した周遊観光イメージ>



※上記【】内の番号は、<地域発展に向け関係者に期待される役割の全体構成>の番号との対応を示す